

果樹 8 月下旬の巡回調査結果の概要について

このことについて、以下のとおりですので、病害虫防除指導の参考にしてください。

【東北信】 巡回日 8 月 21、22、25、26、27 日

1 リンゴ（東信 3 ほ場、北信 8 ほ場）

- （1）褐斑病は、東信 1 ほ場、北信 2 ほ場でみられ（図 1）、
発病新梢率は 3.3～6.7% であった。
- （2）輪紋病は、北信 1 ほ場でみられ、発病果率は 0.7% であった。
- （3）炭疽病の発生はみられなかった。
- （4）キンモンホソガは、東信 1 ほ場、北信 3 ほ場で寄生葉が
みられ、被害葉率は 0.7～2.7% だった。
- （5）リンゴハダニは、東信 3 ほ場、北信 3 ほ場で成若幼虫の寄生がみられた。
ナミハダニは、東信 1 ほ場、北信 7 ほ場で成若幼虫の寄生がみられた。
リンゴサビダニは発生がみられなかった。
- （6）ハマキムシ類の被害新梢はみられなかった。



図 1 リンゴ褐斑病の発病葉（北信地域）

2 ぶどう（東信 1 ほ場、北信 5 ほ場）

- （1）べと病は、北信 1 ほ場で発病がみられ（図 2, 3）、発病新梢率は 10.0%、発病葉率は 1.6% であった。
- （2）黒とう病は発生がみられなかった。
- （3）チャノキイロアザミウマの被害葉はみられなかった。



図 2 ブドウべと病の発病葉・裏（北信地域）



図 3 ブドウべと病の発病葉・表（北信地域）

3 もも（東信 2 ほ場、北信 4 ほ場）

- （1）灰星病は、東信 1 ほ場でみられ、発病果率は 0.3% であった。
- （2）モモハモグリガの被害葉はみられなかった。
- （3）クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。

【中南信】 巡回日 8 月 21、22、25 日

1 りんご（南信 5 ほ場、中信 5 ほ場）

- （1）褐斑病の発生はみられなかった。
- （2）輪紋病は、南信 1 ほ場でみられ、発病果率は 0.3% であった（図 4）。
- （3）炭疽病は、南信 1 ほ場でみられ、発病果率は 0.3% であった（図 5）。
- （4）キンモンホソガは、南信 3 ほ場で寄生葉がみられ、被害葉率は 0.7～2.7% であった。
- （5）リンゴハダニは、南信 3 ほ場、中信 2 ほ場で成若幼虫の寄生がみられた。

ナミハダニは、全てのほ場で成若幼虫の寄生がみられ、うち南信 2 ほ場では、10 葉当たり寄生虫数が 200 頭以上であった。

リンゴサビダニの寄生はみられなかった。

- （6）ハマキムシ類の被害新梢はみられなかった。



図 4 リンゴ輪紋病（南信地域）

2 なし（南信 6 ほ場、中信 1 ほ場）

- （1）うどんこ病の発生はみられなかった。
- （2）黒星病、黒斑病、輪紋病の発生はみられなかった。
- （3）カイガラムシ類、吸蛾類、ハマキムシ類の被害はみられなかった。
- （4）リンゴハダニは、成若幼虫の寄生はみられなかった。

ナミハダニは、南信 5 ほ場で寄生がみられた。

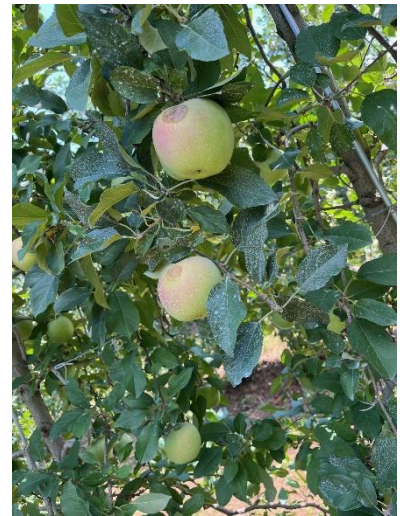


図 5 リンゴ炭そ病（南信地域）

3 ぶどう（南信 2 ほ場、中信 3 ほ場）

- （1）べと病は、中信 1 ほ場で発病がみられ、発病新梢率は 10.0%、発病葉率は 2.7% であった。
- （2）黒とう病の発生はみられなかった。
- （3）チャノキイロアザミウマの被害葉はみられなかった。

4 もも（南信 1 ほ場、中信 1 ほ場）

- （1）灰星病の発生はみられなかった。
- （2）モモハモグリガの寄生葉はみられなかった。
- （3）クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの寄生はみられなかった。

5 その他

- （1）県下のうめの調査ほ場において、アブラムシ類、クビアカツヤカミキリ、モモヒメヨコバイの発生はいずれもみられなかった。
- （2）りんご、なしの調査ほ場において、侵入警戒病害虫の火傷病、コドリングの発生はいずれもみられなかった。